

【第1号議案】2022（令和4）年度 事業計画案 （別紙参照）

展示事業

[概略]

年間の開館日は232日間、休館日は133日間。展示替えのための休館日は、22～26日間を充てたい。2022（令和4）年度は、4月9日から企画展示3本と常設展示3本を計画（詳細は「別紙1」参照）。企画展示については紹介文化人の地元顕彰館もしくは顕彰団体と連携しながら、準備を進めていきたい。感染禍のため、入場者目標数は、開設以降の当館での類似企画展を参照して、それらと同程度に設定した。

イベント事業

[概略]

2022（令和4）年度は企画展示の関連事業として、協力顕彰館や関連団体などからゲストを招いて講演会など年間数本を予定（ただし、新型コロナウイルスの拡大状況により変更あり）。

調査及び研究・研修事業

[概略]

調査及び研究については、展示室内で紹介している文化人を中心とした基礎データを基に、データベースを整備している。郷土史家から協力いただき、埋もれている文化人の調査を進めている。研修については感染禍ではあるが、館運営の質を向上させるため、また他館との連携を強化するために、職員研修の機会を拡充したい。

教育普及事業

[概略]

これまでと同様に、企画展示の解説会を複数回行う。

また、「にいがた偉人かるた」（2018〔平成30〕年作成）と副読本をあわせた出前授業のPRを進めたい。

（1）学芸員等による作品解説会（約1時間）

企画展示の会期中、全3回の作品解説会を予定。2019（平成31・令和元）年度までの「月いちレクチャー」と同様、解説会開催によるリピーターと新規顧客増を期待する。ただし、解説時間は新型コロナウイルスの拡大状況により短縮も想定している。

（2）外部講演など

教育機関や各種団体の要請により、館長、事務局長、学芸員が対応する。外部講

演時に企画展示の PR や、副読本や関連図、かるた等の販売も実施したい。

(3) 副読本を活用した講演会、出前授業など

2017（平成 29）年度に副読本『みんなで伝えよう にいがた文化の記憶』（2015 [平成 27] 年 7 月発行）PR 用に文化人似顔絵パンフレット（A3 二つ折り、カラー）を作成した。2021（令和 3）年度も文化功労者に県出身者の素粒子物理学者・鈴木厚人氏が認定されたため、同年度内に改訂版を作成した（公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部の助成により印刷）。2022（令和 4）年度の新中学 1 年生に配布予定。

2018（平成 30）年度に作成した「にいがた偉人かるた」は、現状では、新型コロナウイルスの流行により学校使用が難しいと想定している。新型コロナウイルスの収束時に向けて、新潟の人の文化を知るための教材として副読本と一緒に活用できるよう、出前授業を計画したい。感染状況を見て、県内の小中学校校長会等に提案したい。

2015（平成 27）年度から新潟県立教育センターの既存キャリア教育推進事業「学ぼう新潟の知恵」の派遣講師（『知恵伝』）に学芸員が登録。学校の要請に応じて副読本を活用した出前授業に対応する。

連携・交流事業

[概略]

感染禍で遠出が難しい状況を機会と考えて、県内顕彰館または顕彰団体の出張展示への参加を促したい。出張展示では、各館単体では難しい展示や広報等のサポートをしていきたい。感染禍ではあるが、県内顕彰施設および団体との具体的な連携がとれるよう、広く意見を聴取し、連携を強化していきたい。

(1) 第 6 回にいがた文化ネットワーク協議会の開催

2020（令和 2）年度は新型コロナウイルス拡大による参加者の安全確保のため、第 5 回にいがた文化ネットワーク協議会の開催を取り止めた。

そのため、第 5 回協議会を 2021（令和 3）年度に開催。新型コロナウイルス下での顕彰活動や顕彰館運営などを報告し、これからの活動について話し合った。2019（令和元）年度に開催した「第 34 回国民文化祭・にいがた 2019」のレガシー活用を目指し、顕彰施設及び団体との連携・交流を強化するため、2022 年初夏に第 5 回ネットワーク協議会を開催したい（ただし、感染症の感染拡大状況により変更あり）。

(2) 機関誌「にいがた文化 第 7 号」の発行

2021（令和 3）年度の「にいがた文化 第 7 号」（24 ページ）は 2022 年 3 月中旬に完成（広告掲載企業は 27 社 31 コマ）。2022 年度の「にいがた文化 第 8 号」で

も当館の事業報告と県内顕彰施設や団体が実施する翌年度の催事紹介、広告掲載などを予定。

顕彰人物選定委員会

[概略]

2022（令和4）年度も県内出身またはゆかりの文化人基礎データ構築作業を続ける。顕彰人物選定委員会の立ち上げや発足については、顕彰候補人物が増えて、データ構築が進んだ段階で、発足を目指したい。

【参考資料】

別紙1「2022（令和4）年度 事業計画案（詳細）」

別紙2「2022（令和4）年度 にいがた文化の記憶館 企画展示スケジュール・開館カレンダー」